

2020年9月9日(水)第2水曜祈祷会

ルカの福音書22:39～53

「わたしの願いではなく」

■かつてない危機が迫っていた…(22:24-38)

- ①サタンが弟子たちを麦のようにふるいにかける → 罪なき神の御子が人類のために死なれる
- ②ご自身のことより弟子たちのことに心を注がれた → 霊的備えをしなさい、とりなしの祈り
- ③祈りの大切さを教えられた → 父なる神に対する絶対的信頼

■ゲッセマネの祈り（苦難に対する最大の備え、22:35-46）

- ①「いつものように」「いつもの場所」で祈られた → 大切な働きを前にしていつも祈られた場所
- ②「この杯を取り去ってください」 → 私たちの想像を超える苦しみ、罪人として裁きを受ける
- ③イエスはご自分の使命を知っておられた → 知っていることと従う(明け渡す)ことは別のこと
- ④「わたしの願いではなく、みこころがなりますように」 → 父なる神の御旨に絶対的に従うこと
- ⑤祈りが聞かれるということは… → 自分の願い通りでなくとも、神の御心に従う決心をする
- ⑥「御使いが現れ」「苦しみ悶え」「血の汗」(ヘブル5:7-9) → 霊的戦いの激しさを表現
- ⑦イエスの祈りは父なる神に聞かれたのか → 自ら使命に従っていかれる勝利者としての姿

■イエスの捕縛（渡される夜…、22:47-53）

- ①イエスはユダに「友よ」と語りかけた → 最後まで滅びゆく者に悔い改めを迫られる
- ②ルカは事の成り行きよりもイエスのことばに重点をおいた → ユダ、弟子たち、捕い手たち
- ③「人の子を裏切るのか」 → 罪の本質(その深刻さ)を表現している
- ④「やめなさい。そこまでにしなさい」 → したいようにさせておきなさい(神への従順と罪の責任)
- ⑤「今は…暗闇の力です」 → サタンの力さえ、父なる神の全きご支配の下にある
- ⑥「強盗にでも向かうように」 → 捕い手たちは完全にイエスを誤認していた
- ⑦イエスはなぜ捕らえられたのか → 父なる神の御旨のために自らを明け渡した

まとめ:『わたしの願いではなく』

- ・神の御子が罪人として裁かれるとはどんな苦しみか
- ・「わたしの願いではなく」というイエスの祈りの姿から何を教えられるか
- ・どうしたら思い煩いを神に委ね、自らを明け渡すことができるだろうか
- ・イエスを見捨てて逃げていく弟子たちを見て、イエスはどんな思いだったのだろうか

『父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。』

しかし、私の願いではなく、みこころがなりますように。』

(ルカの福音書22:42)